



●発行月 令和7年6月
 ●発行 岩手県立中央病院 地域医療福祉連携室 〒020-0066 盛岡市上田1-4-1 TEL 019-653-1151 (代)
 ●URL <https://chuo-hp.jp>

「地域医療連携推進の基本方針」

- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1. 顔の見える連携 | 5. 24時間救急受け入れ体制 |
| 2. 地域連携バスと逆紹介の推進 | 6. 地域医療福祉連携室を通じた地域包括型連携の推進 |
| 3. 紹介患者の迅速予約と優先診療 | 7. 高額医療機器の共同利用推進 |
| 4. PHSによるDr.Direct Call | 8. 地域医療研修センターの利用の推進 |

総合診療科のご紹介

総合診療科長 齋藤 雅彦

県庁所在地に位置し、県立病院群のセンター病院である当院は、29の診療科を標榜しており、各分野の専門診療に長けた医師が揃っています。また、医師以外の各職種も多様なご要望に応えられるよう、日々切磋琢磨しています。しかし、地域の皆様からみると、部署部門が多く、必ずしも使い勝手が良いとは言えないかも知れません。そこで当科では、様々な専門家とその知識・技量を必要としている方々を橋渡ししておつなぎすることを、使命の1つとしています。

医療機関の受診者が減っているのは全国的だそうです。人口減少だけでは説明がつかないともいわれています。世の変遷とともに、人々の暮らしぶりや価値観が移り変わるのは当然であり、対応すべき医療の形も従来のままであって良いわけがありません。費用負担者が医療に求める費用対効果の水準が高くなりました。安全で質の高い医療を提供できているのか、そしてその価値が出費に見合っているのか、今一度検討を要するのかもしれません。医療の均てんに重きを置き、物量に依存する従来のスタイルからの脱却が、わが国の経済事情、そして働き手不足から避けられない課題となりました。

お陰様で昨年度は400件を超える新患を外来で診療させていただきました。当院の入口にゲートキーパーとして立ち、「よらず相談所」をやってみると、原因のわからない発熱の相談が最も多く、受診理由のおよそ4分の1を占めます。原因は多岐に渡り、経験豊富なドクターであっても見立てに難渋することがあるかと思います。手練れの先生方がご紹介下さる患者さんですから、一筋縄では対応できず、悩ましい場合があります。そんなときのために、院内には各分野・多職種のエキスパートが控えています。問題を切り分け、チームで取り組み、

当座の方針が見えてくると患者さん、そのご家族、そして当科のスタッフもはっとして肩の荷が下ります。

分業化が進んだ大きな組織には、横断的に動ける機敏で風通しのよい部署があるのが望ましいです。そんな部署で活躍できる資質は、知識や技術といったテクニカルスキルといわれているものと同様に、これからは医療を生業としていくうえで、欠かせないものとなるでしょう。患者さんのご紹介をこれまで通りお願い申し上げますとともに、新鮮で多様な症例に数多く触れたい意欲的な若いドクターから、より幅広い患者を相手に臨床してみたいベテランドクターまで、ともに働き学ぶ仲間を募っています。視野が広がること、請け合いです。



症例検討会を毎週火曜と木曜の午後にやっています。指導医と一緒に初診を担当した研修医がプレゼンし、ラポータと画像を供覧して振り返ります。今年度から前院長の宮田が当科のレギュラーメンバーとして加わりました。闊達に意見を交換し討論していると、あっという間に時間が過ぎてしまいます。また、当科のスタッフは育児休暇や介護休暇を活かして、キャリアと家族のどちらも大事にし、時間を工面して互いに助けあっています。



皮膚科のご紹介

皮膚科長 鎌田 啓文



この度、2025年4月に岩手医科
大学皮膚科学講座より、岩手県立
中央病院皮膚科長に赴任しました
鎌田啓文と申します。いつも医療
連携で大変お世話になっておりま
す諸先生方、誠にありがとうございます。

これまでと変わらぬお付き合いをさせて頂けま
したら幸甚でございます。当科の状況につきまして、ご
紹介させていただきます。

皮膚科専門医2名（私と梁川志保先生）、岩手医大
からのお二人の先生（2025年5月までは齋藤太郎先生と
桃李英莉先生、2025年6月からは古川真衣子先生、宍
戸明衣先生）の合計4名、ローテートの初期研修医と
共に診療に当たっております。

これまでの当科の歴史も振り返らせて頂きます。皮膚
科の設立は昭和37年で、初代科長は故野口順一先生
（東北大講師より転出）が勤められました。平成2年に
赤坂俊英先生（前岩手医大皮膚科教授）が今村優子
先生と常勤2人体制を開始、平成4年より瀬川郁雄先生
（現星ヶ丘瀬川皮膚科クリニック）と中村浩昭先生（現
中村・北條クリニック）が勤められました。前任科長の
森康記先生は平成19年から令和7年3月までの約19年間
に渡って勤められました。

森先生が特に力を入れて診療されていたのが、アト
ピー性皮膚炎や尋常性乾癬などの慢性皮膚疾患の治療
と管理や指導でした。森先生の在任中にはこれら治療
の大きな変化があり、アトピー性皮膚炎ではデュピクセ
ントやミチーガなどの抗体製剤、またヴォトリエントやオ
ルミエントなどJAK阻害薬が登場しました。尋常性乾癬
においても、TNF- α 製剤から、抗IL-17製剤や抗IL-23製
剤など多くの生物学的製剤が現れております。また、こ
れらの薬剤の中には難治性の円形脱毛症や化膿性汗腺
炎（慢性膿皮症）に用いられるものもあります。しかし、
高い効果が期待できる一方で、免疫を抑制することに

よる結核やニューモシス肺炎などの発症リスクもあ
り、定期的な採血や画像検査が必要になります。森先
生は、このような製剤が必要となる重症な患者様を開
業医様からご紹介いただき、安全に製剤の導入や継
続を行い、病状を安定させ、新たな医療連携の形を
作られました。今後も、森先生が作られてきた形を踏
襲しつつ、岩手医大皮膚科とも協力の上で、地域の
皆様のための医療を続けていきたいと考えております。

また、新たに科長となります鎌田は、岩手医大で腫
瘍など手術治療に取り組んでおりましたので、手術症
例に関しましてもご紹介お待ちしております。悪性黒色
腫、化学療法やリンパ節郭清を伴う有棘細胞癌につき
ましては、これまで通り岩手医大へのご紹介をお願い
したいと思います。

加えまして、当院は県内有数の救急搬送数である
急性期病院でございますので、急性症状が落ち着き
次第、ADL低下等により自宅退院困難な方は転院を
お願いしております。外来も紹介状必須の完全予約制
にしており、また痤瘡（ニキビ）や白癬などのcommon
diseaseはお近くの皮膚科にこれからもお世話になりたい
と考えております。

以上長くなりましたが、新たなメンバーで頑張って
参りたいと思います。今後ともご紹介をよろしくお願い
申し上げます。



新任医師を紹介します！

令和7年4月1日より
33名の医師が着任いたしました。

皮膚科長

かまだ ひろふみ
鎌田 啓文

血液内科医長

みちまた だいご
道又 大吾

脳神経内科医長

たぐち けいた
田口 啓太

消化器内科医長

ひらつか たかし
平塚 敬士

消化器内科医長

すがさわ しゅう
菅澤 秀

循環器内科医長

やまだ かいと
山田 魁人

小児科医長

ごとう ゆうすけ
後藤 悠輔

消化器外科医長

たかはし じゅん
高橋 洵

呼吸器外科医長

すずき ひろとし
鈴木 寛利

脳神経内科医師

のぎき りょうた
野崎 亮太

脳神経外科医師

しょうじ かおる
庄司 薫

消化器内科医師

かまた ひびき
鎌田 響

消化器内科医師

はまや たつき
濱谷 達起

消化器内科医師

ささき ゆいと
佐々木 唯斗

小児科医師

おきむら まさと
沖村 聖人

小児科医師

ふじもと だい
藤本 大

形成外科医師

たてした だいち
館下 大地

泌尿器科医師

ごとう ゆうた
後藤 佑太

呼吸器内科医師

てらだ あきてる
寺田 明輝

循環器内科医師

はたけやま あずさ
畠山 梓

循環器内科医師

いまの しゅんぺい
今野 駿平

消化器外科医師

うえだ まさひろ
植田 雅大

消化器外科医師

とよき りょう
豊木 諒

消化器外科医師

ちば ゆうき
千葉 勇輝

整形外科医師

やまもと たいき
山本 泰樹

整形外科医師

とば なおき
鳥羽 直紀

産婦人科医師

おばら しおり
小原 史織

産婦人科医師

やまさき かずき
山崎 一輝

麻酔科医師

ひらた ゆういちろう
平田 雄一朗

腎臓・リウマチ科医師

きよはら まち
清原 万智

腎臓・リウマチ科医師

たかはし たすく
高橋 祐

腎臓・リウマチ科医師

まつもと かほ
松本 佳歩

乳腺・内分泌外科医師

あつみ ななこ
熱海 菜々子



どうぞよろしく願ひいたします。

地域医療連携ネットワークシステムのご案内

地域医療福祉連携室

当院での診療情報を、インターネット回線を通じて事前に登録した地域の医療機関で閲覧することができる『岩手県立中央病院地域医療連携ネットワークシステム』を運用しております。当院入院中の検査結果や手術所見、過去に遡っての画像検査、外来での定期検査の所見などをいつでも閲覧いただけます。

患者さんの医療情報がリアルタイムで共有できるため、円滑な医療連携を図ることができますので、まだご参加いただいていない先生方はぜひご検討をお願いいたします。

《閲覧できる情報》

- ①血液などの各種検査結果 ②投薬・注射内容
- ③CT、MRIなどの画像情報 ④画像診断読影所見
- ⑤退院時要約 ⑥手術記録
- ⑦各種サマリー(看護、リハビリ等)

《対象となる医療機関》

システム参加申込をした医療機関（医科・歯科）

《対象となる患者さん》

システム参加医療機関と当院の双方を受診している、又は今後受診予定の患者さんのうち、システムについて説明し参加医療機関において当院の患者情報を閲覧することに同意を得られた患者さん。

《閲覧に必要な機器》

インターネット接続済のパソコン※Windowsのみ対応。

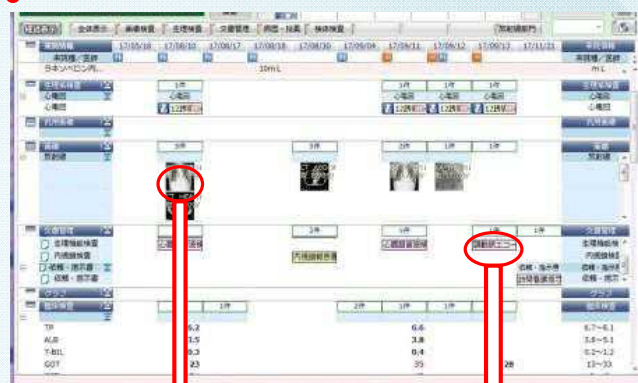
《システム利用料》

一切不要。インターネット端末に入れる専用アプリ等は当院から無償で提供いたします。

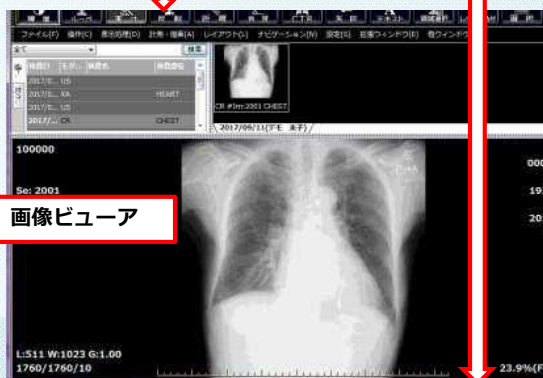
《システムの安全性》

厚生労働省『医療情報システムの安全管理に関するガイドライン』へ適合しています。専用アプリの入った端末のみが安全に地域連携サーバ上のデータ参照を行うことができ、外部への不要なデータ漏洩も防止しています。

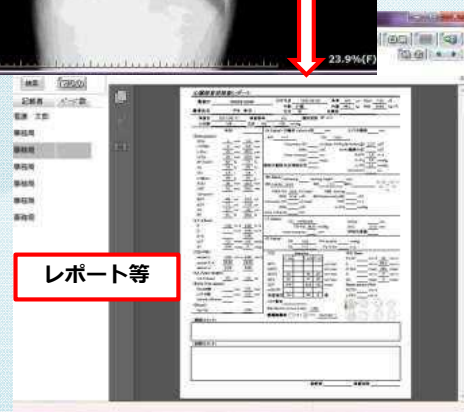
閲覧イメージ



1クリックで参照可能



画像ビューア



レポート等

ご興味がございましたら当院地域医療福祉連携室 地域連携システム担当までご連絡ください。
運用規定等、詳しい資料を送付させていただきます。

【受付時間：平日8時30分～17時 TEL：019-653-1151 地域医療福祉連携室】